

令和6年度 第六回TDPFコミュニティイベント

## 要配慮者の個別避難トータルサポートプロジェクト

---

東京海上レジリエンス株式会社  
日本電気株式会社  
アビームコンサルティング株式会社

2025年2月14日

**1.プロジェクトの概要**

**2.今年度の目指す成果**

**3.今年度の取組と成果**

**4.まとめ・今後の展望**

# 1.プロジェクトの概要

2.今年度の目指す成果

3.今年度の取組と成果

4.まとめ・今後の展望

# 【前提：用語説明】個別避難計画、要配慮者・要支援者について

過去の災害の教訓から令和3年に災害対策基本法が改正され、**個別避難計画の作成が基礎自治体の努力義務**とされました

## 要配慮者・要支援者とは

**災害要配慮者（＝要配慮者）**  
高齢者、障がい者、乳幼児等の防災  
施策において特に配慮を要する方

**避難行動要支援者（＝要支援者）**  
災害発生時の避難等に支援を要する方

## 個別避難計画とは

災害対策基本法の改正（令和3年）

### 努力義務化



### 個別避難計画に記載する情報（例）

- ✓ 要支援者情報（氏名・住所・要介護度情報等）
- ✓ 支援者情報
- ✓ 避難行動計画（どこへ・だれと・どうやって）
- ✓ 情報伝達方法
- ✓ 避難時・避難先での留意事項
- ✓ 医療機関等の連絡先

等

# プロジェクトの背景と目的

## 背景

東京都においても  
豪雨は近年増加傾向

災害要配慮者・  
避難行動要支援者の  
支援対策が急務

災害対策基本法  
の改正により、個別  
避難計画作成が基礎  
自治体の努力義務

基礎自治体の  
業務負荷が高く  
対応に追われている

## 目的

要配慮者の避難支援に対して基礎自治体が抱える課題を解消し、  
避難が必要な要配慮者の「逃げ遅れゼロ」へ貢献するための  
仮説検証・ニーズ調査を実施

※今回のプロジェクトの対象となる災害は風水害

# 課題解決に向けた取組の全体像

要配慮者の避難支援におけるあるべき姿の実現に向けて、  
実証1～5を実施しました

対象	要支援者				要配慮者
避難支援 プロセス <small>※基礎自治体目線</small>	個別避難計画 作成	安否確認	避難移動 (支援者連携)	避難移動 (協定事業者連携)	避難意思
基礎自治体 が抱える 課題例	実証1 計画時に決めた 避難ルート通りに 避難ができない	実証2 安否確認に時間 を要することで迅 速なフォローがで きない	実証3 要支援者の災害 時支援に不安 <small>※支援者目線</small>	実証4 災害時の車両抛 出の具体的な連 携方法が定めら れていない	実証5 大規模な水害が 予測されても、避 難を躊躇する <small>※住民目線</small>
あるべき姿	個別避難計画書 の実効性が担保 される	安否確認が取れ ていない要支援 者へ迅速なフォロ ーを実現する	要支援者支援に 必要な情報を提 供し、支援の心 理的ハードルが下 がる	災害時における 連携方法が明確 化され、実行でき る状態になっている	要配慮者の事前 避難を促進
<p>← プロセス間でのシームレスなデータ連携・データを活用した高度化を実現 →</p>					
<p>← データの共通化・システム連携を通じて、要配慮者避難支援における全体最適を実現 →</p>					

# プロジェクト体制図

多摩市様、江戸川区様のご協力のもと東京海上レジリエンス（代表企業）  
日本電気、アビームコンサルティングの3社で本プロジェクトを推進してまいりました

事業者

代表企業

東京海上レジリエンス

<実証1~5>

- ✓ 事業全体管理・関係者調整
- ✓ 実証全体企画・実行

日本電気

<実証1~3>

- ✓ 実証環境構築
- ✓ 検証企画・実行支援

<実証4>

- ✓ ツール準備・実行支援

アビームコンサルティング

<実証1>

- ✓ 道路通行実績データ分析  
(冠水・倒木等で通行不可や危険を要する可能性がある道路を可視化)

実証フィールド

実証1~4

多摩市様

実証5

江戸川区様

協力

ニーズ  
調査

東京都他自治体

1.プロジェクトの概要

**2.今年度の目指す成果**

3.今年度の取組と成果

4.まとめ・今後の展望

# 今年度の目指す成果

## 要配慮者の避難支援において基礎自治体が抱える課題解決のため、 実証1～5を通じ、有効データ・ニーズを明らかにします

対象	要支援者				要配慮者
避難支援 プロセス <small>※基礎自治体目線</small>	個別避難計画 作成	安否確認	避難移動 (支援者連携)	避難移動 (協定事業者連携)	避難意思
実証内容	実証1 道路関連データ を活用して避難 ルートを作成	実証2 要支援者の安否 確認結果をシス テムで即時連携・ 一元管理	実証3 支援者向けに、 要支援者の支援 に必要な情報を 適切に届ける	実証4 災害協定事業者 と他ステークホル ダー間での連携フ ロー・データを整 理	実証5 災害時に安全な 宿泊先が予約で きるサイトを構築
目指す 成果	道路関連データ の活用が安全な 避難ルート作成 に繋がることを確 認	要支援者に対す る迅速なフォロー に繋げられること を確認	支援に必要な複 数データの一元 提示が支援のし やすさに繋がるこ とを確認	災害時の車両抛 出を実現させるた めに必要となるデ ータ連携・スキ ームを明確化	安全な宿泊先を 予約できる方法 があることが広域 避難の動機づけ となることを確認

1.プロジェクトの概要

2.今年度の目指す成果

**3.今年度の取組と成果**

4.まとめ・今後の展望

実証参加者・  
属性

多摩市のケアマネージャー 16名（40代～60代）

1



最短での  
避難ルートを  
作成

2



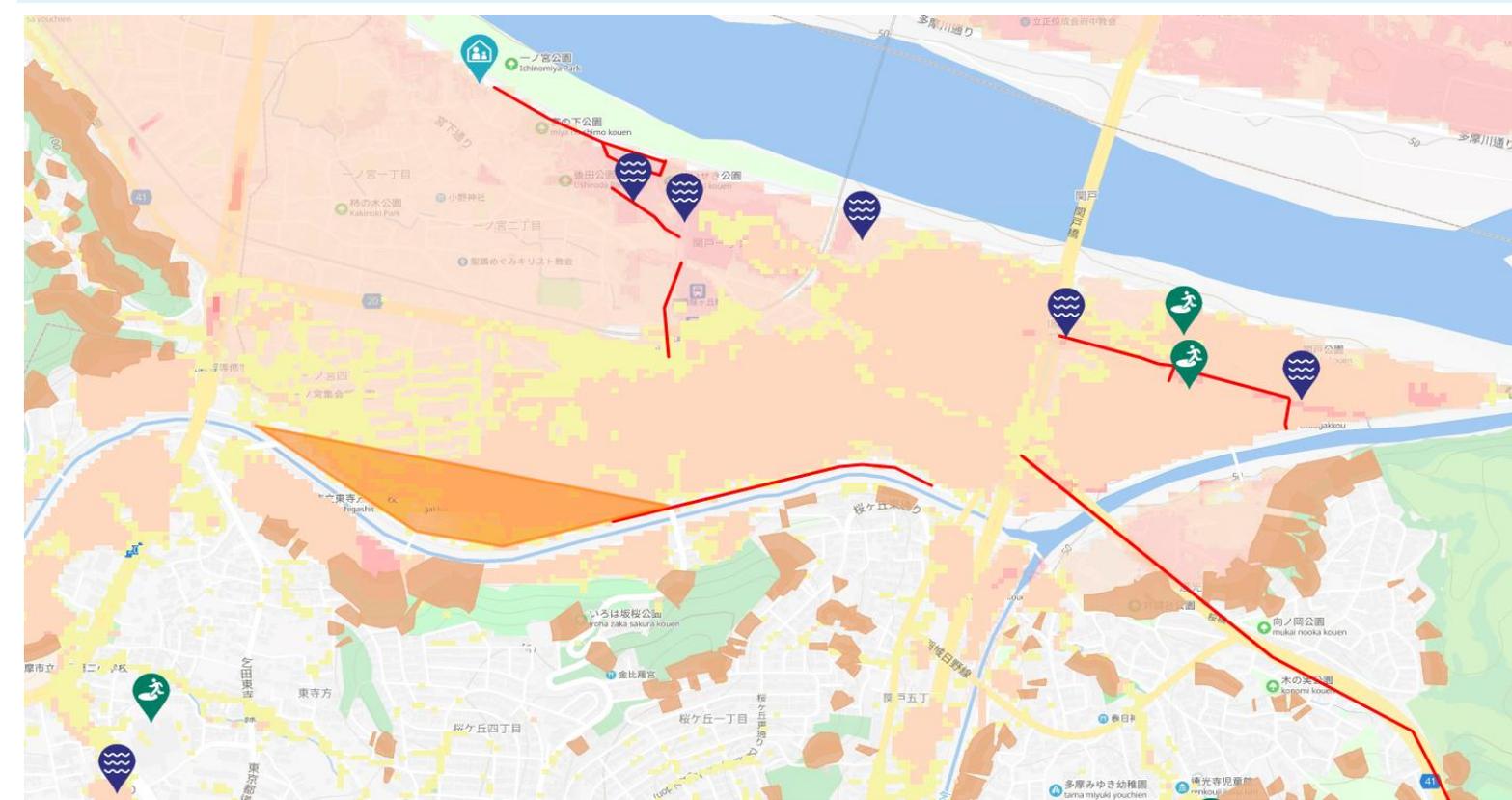
追加情報となる  
道路関連情報を  
参照して避難ル  
ートを再作成

3



アンケート

## 過去の災害時の冠水情報や通行止め区間の情報が 安全な避難ルート作成に繋がることを確認できました

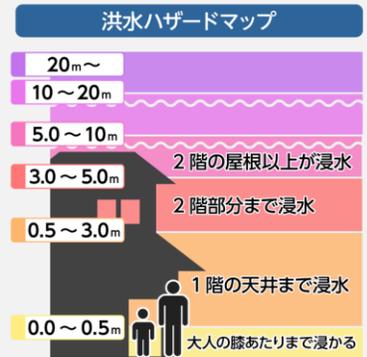


### 凡例

-  要支援者宅
-  避難所

（過去実績情報）

-  冠水箇所
-  冠水地域
-  通行止め区間



#### 土砂災害ハザードマップ

	特別警戒区域	警戒区域
<b>急傾斜地の崩壊</b> 	傾斜度が30度以上ある土地が急激に崩壊 	
<b>土石流</b> 	崩壊した山腹や土石が一気に押し流される 	
<b>地すべり</b> 	斜面の一部が地下水等の起因で滑り広がる 	

 アンケートの結果、上記情報が「必ずいる情報」もしくは「あれば嬉しいと思う」が約97%

※実証のためダミーデータを使用しております

Before



過去災害時の  
通行止め区間  
を通っている

データを重ね合わせることで、過去の通行止め区間を通るルートであることがわかった

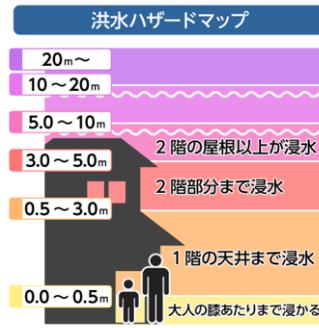
After



安全なルートへ  
迂回

通行止め区間や冠水箇所など  
**リスクの高い道を通らないルート  
で避難ルートを作成できた**

- ### 凡例
- 要支援者宅
  - 冠水箇所
  - 冠水地域
  - 通行止め区間
  - 作成ルート



#### 土砂災害ハザードマップ

	特別警戒区域	警戒区域
急傾斜地の崩壊	傾斜度が30度以上ある土地が急激に崩壊	
土石流	崩壊した山腹や土石が一気に押し流される	
地すべり	斜面の一部が地下水等の起因で滑り広がる	

※実証のためダミーデータを使用しております

実証参加者・  
属性

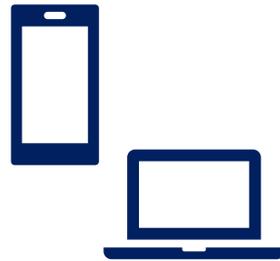
多摩市のケアマネージャー 12名（40代～60代）  
多摩市の職員：3名

1



Beforeフロー  
での安否確認  
を実施

2



Afterフロー  
での安否確認を  
実施

3

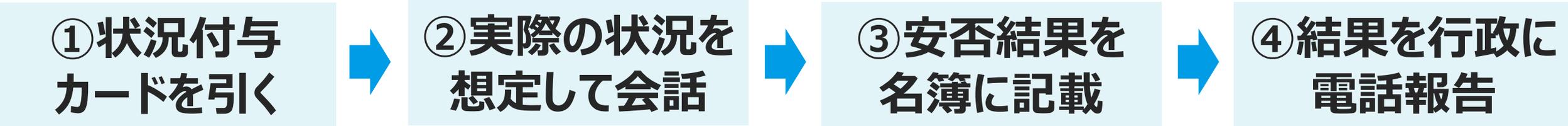


アンケート

1 2 それぞれ時間計測し、所要時間を比較

Beforeフローは、支援者役が安否確認の結果を名簿に記載し、行政職員に対して電話報告を行うものです

## Beforeフローの流れ

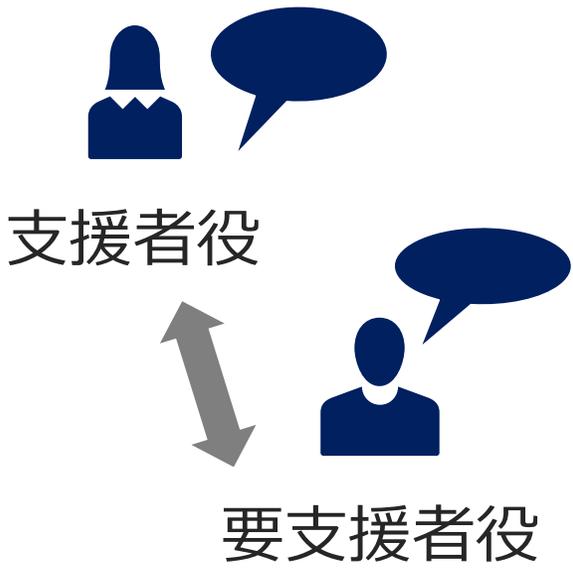


◆対応

電話

◆セリフ

自宅にいます。  
無事です。



避難行動要支援者名簿

番号	所属地域	氏名	性別	生年月日	年齢	住所	電話番号	支援事由 身体障害者 認定済/要 介護/要 介護/要 介護/要	備考
1	第一地域、第二地域	西村 清一郎	男性	1952/06/23	62	東京都多摩市和泉3-4-1-1	0000000001	1階 要介護1	2階 要介護1
2	第一地域、第二地域	田村 茂雄	男性	1941/03/30	63	東京都多摩市和泉4-0-0	0000000002	2階 要介護1	なし 要介護1
3	第一地域、第二地域	上野 早乃	女性	1961/09/23	62	東京都多摩市和泉1-1-9-2-1	0000000003	1階 なし	1階 要介護1
4	第一地域、第二地域	北 敏博	男性	1928/06/22	96	東京都多摩市和泉1-2-0-1	0000000004	1階 要介護1	2階 なし
5	第一地域、第三地域	赤井 敏雄	男性	1951/04/12	53	東京都多摩市一ノ宮4-7-0-2-1-1	0000000005	1階 要介護1	2階 要介護1
6	第一地域、第三地域	橋本 千帆子	女性	1961/12/12	60	東京都多摩市一ノ宮1-7-0-1-9-1	0000000006	1階 なし	なし 要介護1
7	第一地域、第三地域	宇原 清吾	男性	1946/09/22	78	東京都多摩市一ノ宮1-7-0-2-1-1	0000000007	1階 要介護1	2階 要介護1
8	第一地域、第三地域	森村 直彦	男性	1930/12/11	74	東京都多摩市和泉7-2-0-4-1	0000000008	なし 要介護1	2階 要介護1
9	第一地域、第三地域	野口 良博	男性	1956/06/31	68	東京都多摩市和泉4-7-0-0-1	0000000009	なし なし	2階 要介護1
10	第一地域、第三地域	伊予 純一	男性	1929/06/09	96	東京都多摩市和泉2-7-0-1-5-1	0000000010	なし 要介護1	なし 要介護1



※実証のためダミーデータを使用しております



計測の結果、安否確認に係る時間が約84%削減することが確認できました

Beforeフローでの所要時間  
(電話で情報連携)

72分

ケアマネ：14分\*  
行政職員：58分\*

Afterフローでの所要時間  
(システムで情報連携)

11分

約84%削減

\*ケアマネ：10人分の安否確認と職員への電話報告にかかる時間

\*行政職員：ケアマネ12人分の受電対応と要支援者120人分のパンチングにかかる時間

アプリの活用により、電話での報告・聞き取り、結果の集計作業が削減できたことが時間削減の大きな要因です

ケアマネージャー1人当たりの作業			行政職員の作業		
Before	安否確認	安否確認結果を名簿に記入	結果報告（電話）	結果聞き取り・名簿に記録（電話）	結果の集計（エクセル）未確認/不明者の把握
	11分		3分 20秒	40分	18分
	※ケアマネ1人で10名の安否確認 ※参加者6組分の平均値 ※安否確認は状況付与カードを使ったロールプレイ		※代表で4人実施した平均値	※ケアマネ12名分の受電対応（3分20秒×12名）	※要支援者120名分の作業時間 ・ケアマネ一人当たりの要支援者10名×ケアマネ12名
After	安否確認	安否確認結果登録	21%削減		
	11分 20秒				

実証参加者・  
属性

多摩市のケアマネージャー\*：11名（40代～60代）  
多摩市の職員：1名

1



支援に役立つ  
情報（仮説）  
を説明

2



システム上で  
支援に役立つ  
情報を確認

3



アンケート

\* 多摩市様の実態としてケアマネージャー = 支援者ではありません

以下の情報1～6を、各プロセスに必要な情報の仮説として  
検証を行いました

安否確認～要支援者宅訪問

避難実施～避難完了

情報1

安否確認・避難支援を  
開始するタイミングの情報

情報4

災害リスクの高い道路・エリア情報(～要支援者宅)

情報5

災害リスクの高い道路・エリア情報(～避難所)

情報2

地域にいる支援者の  
支援可否の回答割合

情報6

避難所の開設情報  
避難所の保有設備・備品

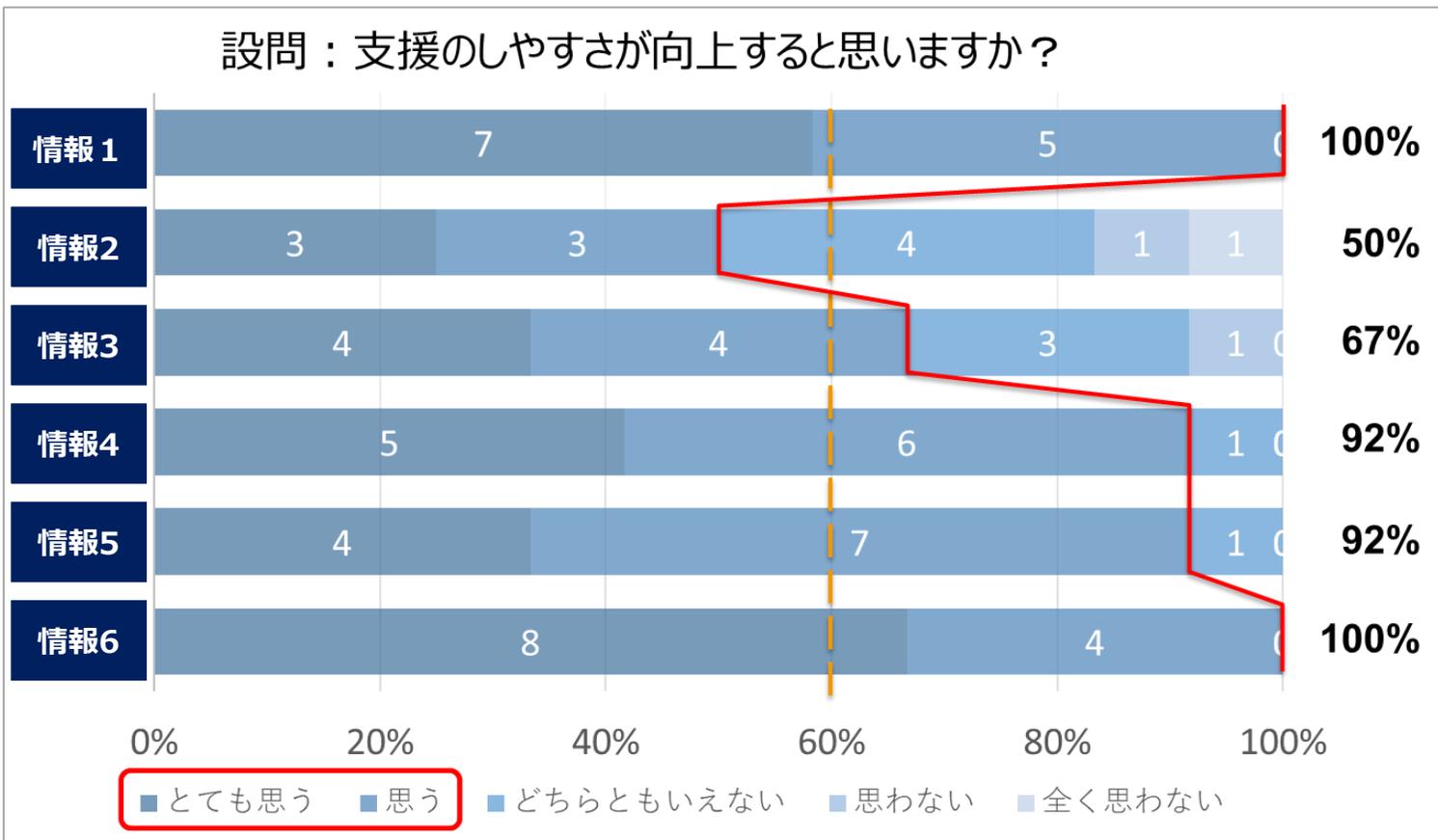
情報3

地域にいる要支援者の安否確認の実施割合

※実証のためダミーデータを使用しております

## 要支援者の支援に必要な複数データを一元的に提示することが 支援者にとって支援のしやすさに繋がることを確認できました

設問：支援のしやすさが向上すると思いますか？



- 情報1 安否確認・避難支援を開始するタイミング情報
- 情報2 地域にいる支援者の支援可否の回答割合
- 情報3 地域にいる要支援者の安否確認の実施割合
- 情報4 災害リスクの高い道路・エリア情報（～要支援者宅）
- 情報5 災害リスクの高い道路・エリア情報（～避難所）
- 情報6 避難所の開設情報、保有設備・備品の情報

## 参加者全員が有効と回答した情報

情報1 安否確認・避難支援を開始するタイミング情報

【訓練】安否確認開始のお願い

★訓練です。現在、災害発生の恐れはありません。

ご担当の要支援者の居住地、もしくはその近隣に、警戒レベル3「高齢者等避難」が発令され、基礎自治体により要支援者の安否確認が開始されました。

下記のリンク（安否確認はこちら）をタップ（指で画面を軽く一度押して）頂き、支援可否の回答、安否確認のご協力をお願いします。

対象者の安否確認はこちら

[避難行動支援](#)  
リンクを開くにはこちらをタップ

17:53

情報6 避難所の開設情報、保有設備・備品の情報



多摩市立武道館

住所	東京都多摩市諏訪4-9
開設有無	開設中
個室有無	<input type="radio"/>
ベッド	<input type="radio"/>
バリアフリー	<input type="radio"/>
薬	A薬、B薬
施設の収容人数	20人
現在の避難者数	10人

案内を開始

# 支援に役立つ情報一例

## 参加者の多く（9割）が有効と回答した情報

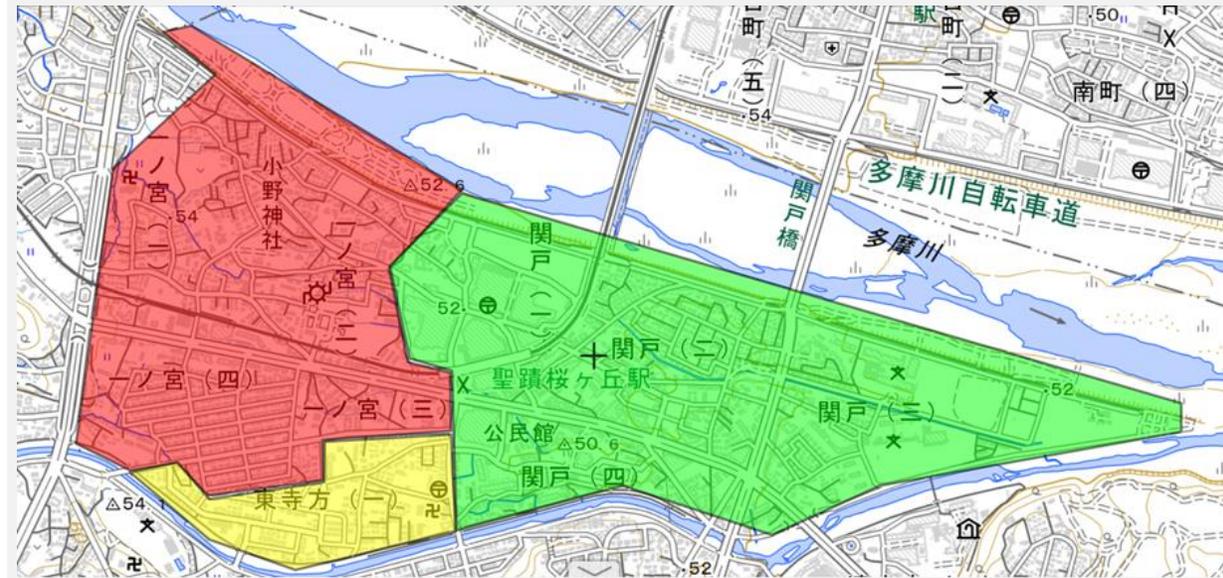
情報4・5 災害リスクの高い道路・エリア情報



- 出発地点
- 到着地点
- ハザードマップ情報
- 冠水地域・箇所（履歴）
- 通行止め道路情報（災害時）
- 訪問/避難経路（計画時）

## 参加者の半数が有効と回答した情報

情報2 地域にいる支援者の支援可否の回答割合



支援可否を登録した割合

80%以上
  30%~80%
  30%以下

実証参加者・  
属性

多摩市様の災害時応援協定締結事業者：3社  
(社会福祉法人、バス会社、タクシー会社)

1



災害時における  
協定事業者の  
動きを整理

2



システム活用による避難移動支援の効率化を  
議論

3



避難移動支援  
に必要なデータを  
明確化

上記①～③を各協定事業者と2時間×3回の打合せの中で実施

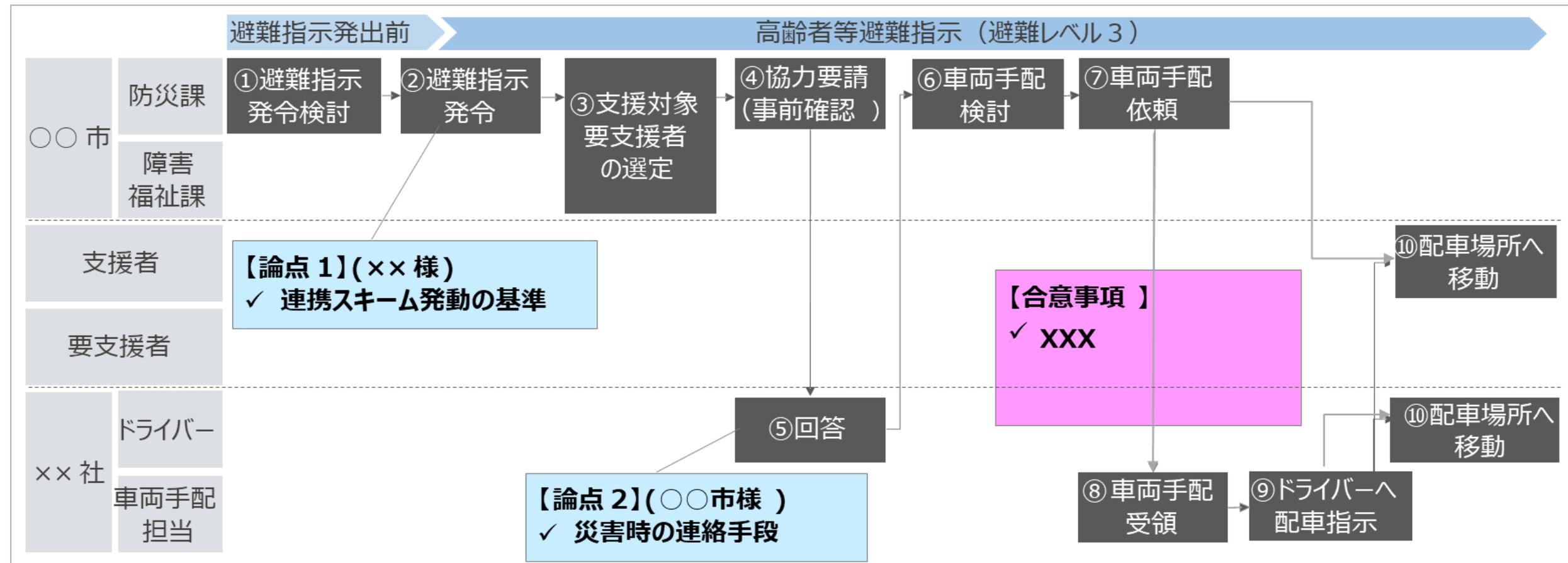
## 支援者・協定事業者・行政職員が共通で使用できるシステムをデモとして用意し、議論しました

使用したシステムデモイメージ ※利用できる画面は、支援者・協定事業者・行政職員で異なります



## 協定事業者との議論を通じ、 災害時の車両抛出の連携フローを明確にすることができました

### 連携フロー（アウトプットイメージ）



協定事業者との議論を通じ、**災害時の車両抛出を実現させるために必要な論点を明確に**することができました

## 論点一覧（アウトプットイメージ）

#	論点	要望主体	連携フロー対応箇所	要望	現状	解決の方向性
1	連携スキーム発動の基準	××様	①高齢者等避難発令検討	✓XXXX	✓XXX	✓XXXXXXXXXX
2	災害時の連絡手段	〇〇市様	④協力要請 ～⑧車両手配受領	✓XXXX	✓XXX	✓XXXXXXXXXX

## 協定事業者との議論を通じ、 災害時の車両抛出を実現させるために必要なデータを明確にできました

### 災害情報関連データ

- 最新の避難指示情報  
(発令状況)

### 道路関連データ

- 通行止め区間  
(過去・リアルタイム)
- 冠水情報  
(過去・リアルタイム)

#### 冠水情報（過去）の詳細（例）

- ✓ 冠水注意地点
- ✓ 過去冠水した災害情報
- ✓ 冠水レベル（何cm等）
- ✓ 冠水時間（XX時～YY時まで）

### 要支援者関連データ

- 氏名・住所
- 要介護度
- 車いす使用状況

### 協定事業者の 車両関連データ

- 車両種類ごとの提供  
可能台数、収容人数
- 車両位置  
(リアルタイム)

## 各データは以下項目で詳細整理を実施

内容の  
詳細

いつ

頻度

誰から・  
誰に

どうやって

実証参加者・  
属性

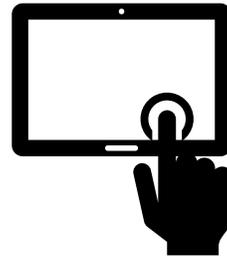
江戸川区在住の一般市民 43名（40代～90代）

1



事前アンケート

2



オンライン  
宿泊予約体験

3



事後アンケート

1

## 宿泊先は自治体と事前協議したエリアに限定

└今回はハザードマップ浸水深0.5m未満のエリアに限定

2

## 宿泊先の位置情報×ハザードマップをホテルページに掲載

└ホテルの詳細ページから安全情報が1クリックで確認可能

3

## 自治体ニーズに合わせたカスタマイズ性

└平時には通常のホテル予約サイトとして利用可能  
自治体の独自制度や情報リンクも掲載  
自治体専用サイトとして案内可能

条件から探す（1都3県都市部限定）

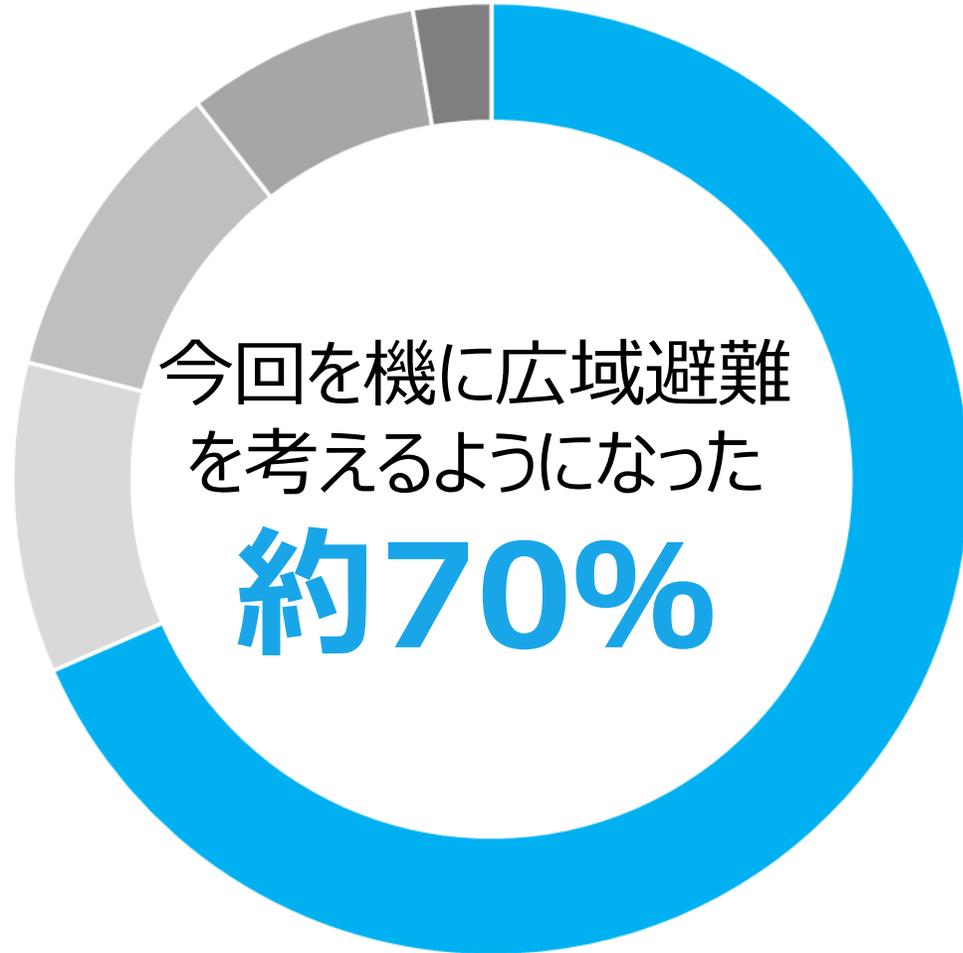
宿泊地

宿泊日

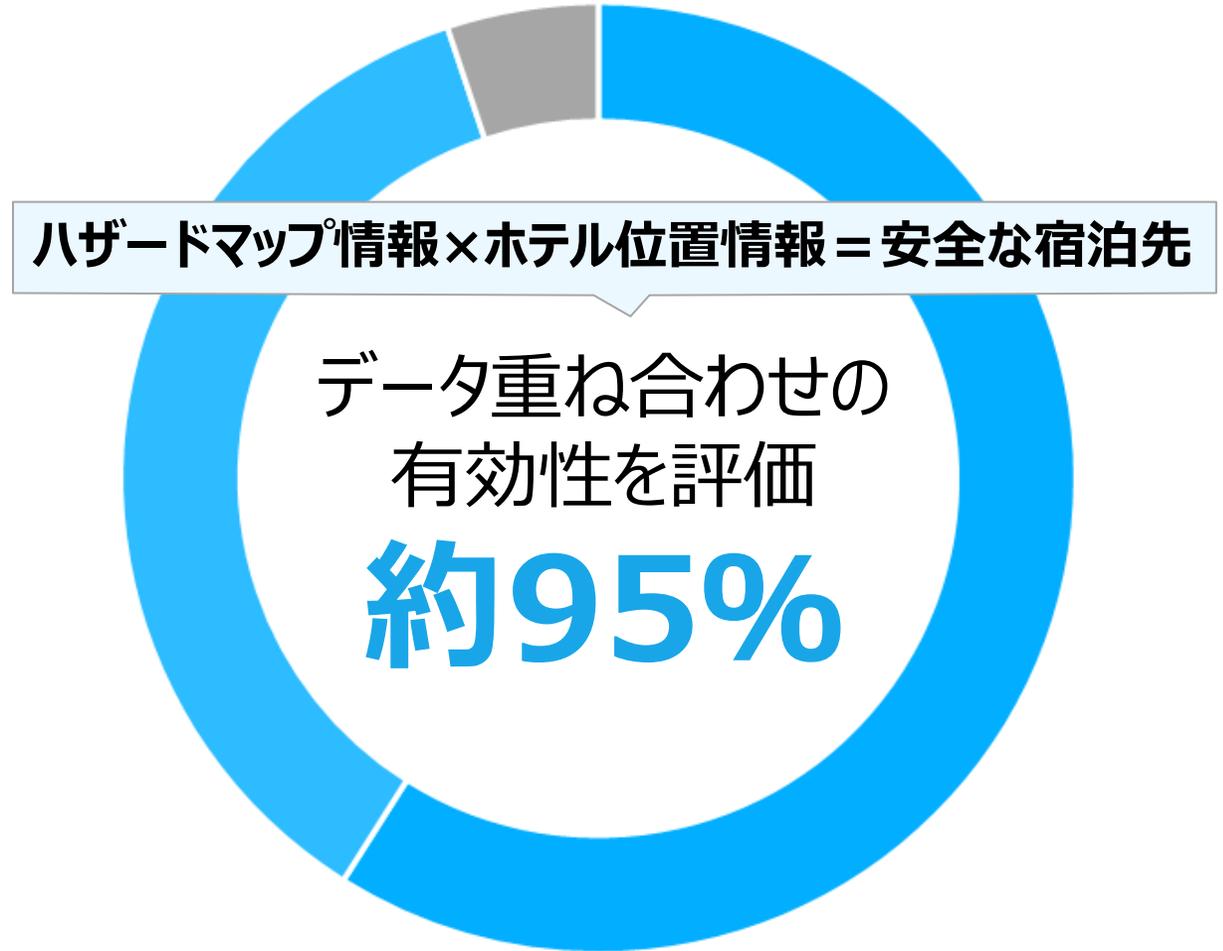
人気エリア・キーワード

※実証のためダミーデータを使用しております

参加者の広域避難の意義理解が得られ、データを掛け合わせた新しい宿泊先予約サイトの有効性が確認できました



\* 避難発令が出た場合このサイトをつかって広域避難しようと思うか、という質問に対し「今回の体験会を機に広域避難を考えるようになった」と回答した割合(無効回答を除く)



\* サイト上で被害が想定される地域の予約ができない仕組みについて、「非常に良い」「良い」と回答した割合(無効回答を除く)

# 今年度の成果\_\_各実証の成果一覧

今年度実証の各取組が、要配慮者の避難支援における  
基礎自治体の課題解決の一助に繋がることが確認できました

対象	要支援者				要配慮者
避難支援 プロセス <small>※基礎自治体目線</small>	個別避難計画 作成	安否確認	避難移動 (支援者連携)	避難移動 (協定事業者連携)	避難意思
目指す 成果	実証1 道路関連データの 活用が安全な 避難ルート作成 に繋がることが確 認	実証2 要支援者に対す る迅速なフォロー に繋がることが 確認	実証3 支援に必要な複 数データの一元 提示が支援のし やすさに繋がるこ とを確認	実証4 災害時の車両抛 出を実現させるた めに必要となるデ ータ連携・スキ ームを明確化	実証5 安全な宿泊先を 予約できる方法 があることが広域 避難の動機づけ となることを確認
結果	 ✓ 道路関連情報が個別避難計画作成に有益なデータであることが確認できた (約97%が有効と回答)	 ✓ システムを活用した安否確認を行うことで、電話での安否確認に比べ約84%業務時間が削減されることが確認できた	 ✓ 支援の各フェーズで適切なデータを提示することが支援のしやすさに繋がることが確認できた	 ✓ 災害時の車両抛出を実現させるために必要となるスキーム・データを明確化ができた	 ✓ 約95%がデータの掛け合わせをしたサイトを高評価 ✓ 本実証を契機に広域避難を考えるようになった人が約70%

要配慮者の避難支援に必要なデータ項目に関する情報を還元します  
**既存データの利活用促進、新たなデータ蓄積検討に活用**いただける想定です

## 還元データ

### データ項目一覧



掲載情報

- ✓ データ分類
- ✓ データの詳細
- ✓ 活用すべきタイミング
- ✓ 必要性  
(必須かどうかの評価)

## 活用イメージ

### 【自治体】

- ✓ 既にデータがあれば避難支援の改善のために活用
- ✓ 蓄積が必要なデータの把握

### 【民間企業】

- ✓ 保持データの提供促進・商用化検討

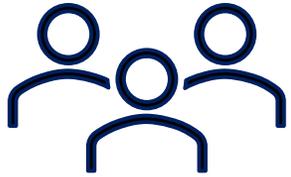
# 【参考】「データ項目一覧」のイメージ（一部）

大分類	中分類	小分類	避難支援プロセスごとのデータ必要有無（一部プロセスに絞って記載）			必須性
			個別避難計画作成	避難移動（支援者連携）	避難移動(協定事業者連携)	
道路関連データ（リアルタイム情報）	冠水情報	冠水地点		○	○	必須
		冠水レベル（何cm等）			○	
		今後の冠水想定			○	
	道路通行情報	通行止め区間		○	○	必須
		混雑状況			○	
道路関連データ（過去情報）	冠水情報	冠水地点	○	○	○	必須
		冠水レベル（何cm等）			○	
		冠水時間（何時から何時まで）			○	
	道路通行情報	通行止め区間	○	○	○	必須
道路関連データ（その他）	一方通行の道路情報	—			○	
	避難のしやすさに関する道路情報	段差の有無等、車イスが通れるかどうか判断できる情報	○			

実証内容に関するヒアリング・アンケート結果を共有します  
**新サービス開発の参考等に活用**いただける想定です

## 還元データ

### ヒアリング・アンケート結果



回答者の  
属性

- ✓ 実証フィールドの自治体
- ✓ 実証フィールド以外の自治体
- ✓ 実証参加者

## 活用イメージ

### 【自治体】

- ✓ 優先対応事項の選別に活用

### 【民間企業】

- ✓ 新サービス開発の参考として活用
- ✓ TDPF会員間での協業のきっかけとして活用

1.プロジェクトの概要

2.今年度の目指す成果

3.今年度の取組と成果

**4.まとめ・今後の展望**

# 【再掲】課題解決に向けた取組の全体像

要配慮者の避難支援におけるあるべき姿の実現に向けて、  
実証1～5を実施しました

対象	要支援者				要配慮者
避難支援 プロセス <small>※基礎自治体目線</small>	個別避難計画 作成	安否確認	避難移動 (支援者連携)	避難移動 (協定事業者連携)	避難意思
基礎自治体 が抱える 課題例	実証1 計画時に決めた 避難ルート通りに 避難ができない	実証2 安否確認に時間 を要することで迅 速なフォローがで きない	実証3 要支援者の災害 時支援に不安 <small>※支援者目線</small>	実証4 災害時の車両抛 出の具体的な連 携方法が定めら れていない	実証5 大規模な水害が 予測されても、避 難を躊躇する <small>※住民目線</small>
あるべき姿	個別避難計画書 の実効性が担保 される	安否確認が取れ ていない要支援 者へ迅速なフォロ ーを実現する	要支援者支援に 必要な情報を提 供し、支援の心 理的ハードルが下 がる	災害時における 連携方法が明確 化され、実行でき る状態になっている	要配慮者の事前 避難を促進

プロセス間でのシームレスなデータ連携・データを活用した高度化を実現

データの共通化・システム連携を通じて、要配慮者避難支援における全体最適を実現

# 全体総括\_最終的にあるべき姿 (イメージ)

避難支援プロセス全体で検討・連携を行い、関係者間でフェーズフリー且つシームレスに連携できるシステムやアプリを構築していく必要があると考えます



# 全体総括\_\_今年度実証を通じて見えたこと

今年度実証を通じて、前頁「最終的にあるべき姿」を実現するためには  
**「共通データの活用」**および**「関係者連携」**が重要だと認識しました

## 「共通データの活用」に関する気づき

- ✓ **各プロセスで必要なデータは共通**しているものもある  
(例：道路関連データ)

過去災害時の  
通行止め情報

過去災害時の  
冠水情報 …

- ✓ **避難支援時(災害時)にニーズが高いデータは個別避難計画作成時(平時)から盛り込んでおく必要がある**  
(例：要支援者関連データ)

玄関位置

支援において  
気を付けること …

## 「関係者連携」に関する気づき

- ✓ **プロセス全体での横断検討が肝要**だが、**関係者が多岐にわたり、連携が難しい**

【避難支援における関係者イメージ】

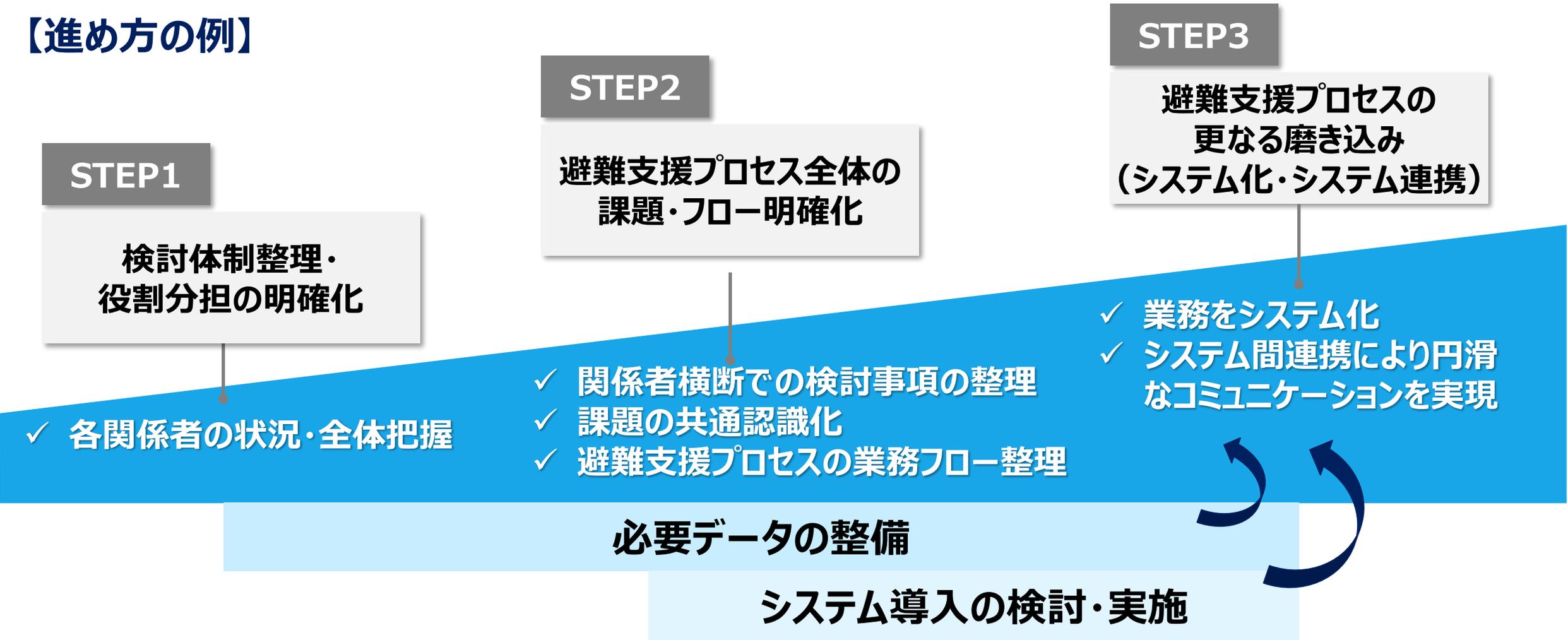


(連携の難しさの例)  
災害時の避難支援において、**日頃接点のない、要支援者・支援者と災害協定締結事業者が連携**しなければならない

# 全体総括\_最終的にあるべき姿に向けた進め方（例）

体制・業務整理と並行して、今年度実証で明確にした必要データの情報を参考に  
データ整備に早期着手することが重要だと考えます

## 【進め方の例】



## 複数の避難支援プロセスで必要となる、 **通行止め情報や冠水情報(過去情報)**を優先的に整備する必要があると考えます

：ハザードマップ情報・警報情報・要支援者情報等、既存業務で整備している情報以外で、優先的に整備を進めた方が良いと考えられる情報

データ分類	データ概要 (一例)	避難支援プロセスごとのデータ必要有無 (一部プロセスに絞って記載)		
		個別避難計画作成	避難移動 (支援者連携)	避難移動 (協定事業者連携)
災害	ハザードマップ情報	○	○	○
	最新の避難指示情報		○	○
避難先	避難所位置・設備	○	○	○
道路	<b>通行止め情報 (過去)</b>	<b>○</b>	<b>○</b>	<b>○</b>
	通行止め情報 (リアルタイム)		○	○
	<b>冠水情報 (過去情報)</b>	<b>○</b>	<b>○</b>	<b>○</b>
	冠水情報 (リアルタイム)		○	○
要支援者	住所	○	○	○
協定事業者の車両	車両位置 (リアルタイム)		○	○
	提供可能な車種・台数		○	○

# 全体総括\_\_早期に提供が可能なサービス・今後の展望

**基礎自治体向けに要配慮者の避難支援に関わるサービスの提供が可能です**  
一部サービスの実装を進めながら、今後更なる改善・開発を行います

凡例： 今回の実証で活用したサービスで早期に提供が可能なもの

今回の実証で活用していないサービスで早期に提供が可能なもの



## 今年度事業の対象ソリューション 今年度事業の検証結果をもとに機能改善を実施

**実証5**  
避難先の  
ホテル予約  
サイト

要支援者の避難支援サービス（トータルソリューションとして提供見込）

**実証1** 個別避難計画のデジタル化

**実証2** 安否確認のデジタル化

**実証3** 支援者サポート情報の提供

**実証4** 協定事業者との連携スキーム構築

更なる  
サービス開発

要配慮者支援に関するコンサルティングサービス

プライバシー影響評価（PIA）・リスクアセスメント

更なるサービス開発

TDPFの皆様とも連携してサービス実装・開発を推進できると幸いです



# Appendix

# 「個別避難計画のオンライン作成サービス」の提供が可能です

実証結果やニーズ調査を踏まえ、データの掛け合わせ機能の追加を検討します

## 職員向け機能



自治体職員

要支援者の  
個別避難計画

## 地域関係者向け機能



ケアマネ



支援者  
(家族等)

### 避難行動要支援者名簿管理

住基や障がい、介護などの情報を取込、避難行動要支援者名簿の管理が可能です。

### 作成優先度設定

ハザードマップを参照しながら、年齢や等級などを条件に作成対象者の優先度設定も可能です。

### 個別避難計画オンライン作成

庁舎外からタブレット等を利用して、避難に係わる情報の入力・更新を手間をかけずに簡単に可能です。

### 避難経路図作成

避難経路を自動作成可能です。ハザードエリアなどを考慮して手動で避難経路を編集も可能です。

\* サービスの詳細については、自治体様と様とすり合わせて決定いたします

# 「共助を促進する安否確認サービス」の提供が可能です

実証結果やニーズ調査を踏まえ、安否確認を効率化する機能を検討します



ケアマネ



支援者  
(家族等)



安否状況の登録・共有システム



自治体職員

要支援者一覧

絞り込み検索

125人 10人 60人 5人

氏名	XXX 11	XXX 11	安否状況 11	支援者 11	支援可否 11	所属地域 11	
B校区要支援者25	□		未確認	B校区支援者09	7 未回答	B校区	詳細
B校区要支援者26			不可	B校区支援者09	× 支援不可	B校区	詳細
B校区要支援者27	□		危険な中	B校区支援者09	✓ 支援可	B校区	詳細
B校区要支援者28			安全	B校区支援者09	✓ 支援可	B校区	詳細
B校区要支援者29			危険な中	支援者未定	-	B校区	詳細
C校区要支援者01			危険な中	C校区支援者01	7 未回答	C校区	詳細
C校区要支援者02			不可	C校区支援者01	7 未回答	C校区	詳細
C校区要支援者03	□		危険	C校区支援者01	× 支援不可	C校区	詳細
C校区要支援者04			危険	C校区支援者01	✓ 支援可	C校区	詳細
C校区要支援者05			安全	C校区支援者01	✓ 支援可	C校区	詳細
C校区要支援者06			危険	C校区支援者01	✓ 支援可	C校区	詳細

- ✓ アプリで必要な情報を閲覧し安否確認・避難支援の結果を登録
- ✓ 支援状況はリアルタイムに関係者に共有が可能です

\* サービスの詳細については、自治体様と様とすり合わせて決定いたします

# 「支援者へのプッシュ通知サービス」の提供が可能です

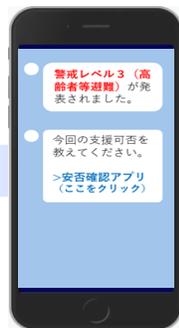
実証結果やニーズ調査を踏まえ、支援者へ提示する情報の提示を検討します



自治体職員



警戒レベル3  
(高齢者等避難)  
の発令



SNSへ  
プッシュ通知  
(自治体公式LINE)



災害時情報参照・登録機能

要支援者の電話番号の表示、  
避難所までの地図など現地で何をすべきかを案内  
安否状況、メモ情報を登録可能です



ケアマネ



支援者  
(家族等)

\* サービスの詳細については、自治体様と様とすり合わせて決定いたします

「連携スキームの検討コンサルティングサービス」の提供が可能です  
実証の結果やニーズ調査を踏まえ、システム化を検討します

事前準備

車両提供フローの仮案・論点についてすり合わせ



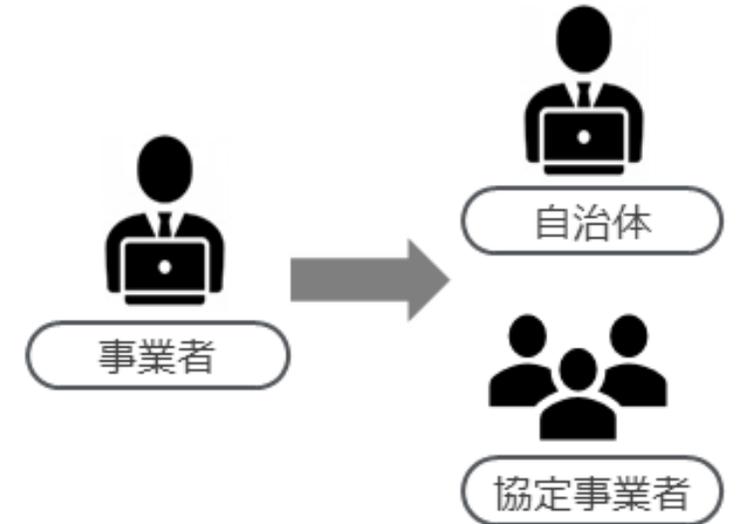
WS形式で議論を実施

車両提供フローの仮案・論点をベースに議論を実施



連携スキームの整備

議論を踏まえた車両提供フロー論点一覧を提示



\* サービスの詳細については、自治体様と様とすり合わせて決定いたします

「災害情報を加味した宿泊先予約サイト」のサービスを提供可能です  
実証の結果やニーズ調査を踏まえ、データの掛け合わせ機能追加を検討します

イメージ

TOPページ



災害時サイト

